

## 平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成28年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語A	124人	国語B	124人
② 数学A	124人	数学B	124人

#### 5 留意事項

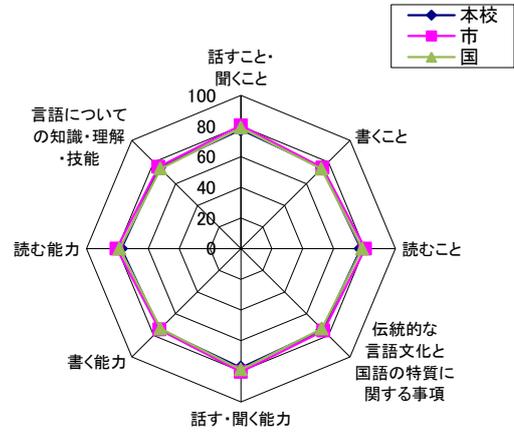
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立城山中学校第3学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

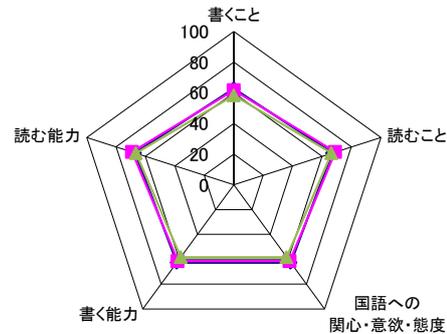
### 【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	77.7	80.5	78.9
	書くこと	74.6	74.7	73.7
	読むこと	77.6	80.5	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.8	75.6	73.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	77.7	80.5	78.9
	書く能力	74.6	74.7	73.7
	読む能力	77.6	80.5	78.6
	言語についての知識・理解・技能	74.8	75.6	73.9



### 【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	62.7	61.6	58.3
	読むこと	67.0	69.1	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	62.7	61.6	58.3
	話す・聞く能力			
	書く能力	62.7	61.6	58.3
	読む能力	67.0	69.1	66.5
	言語についての知識・理解・技能			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

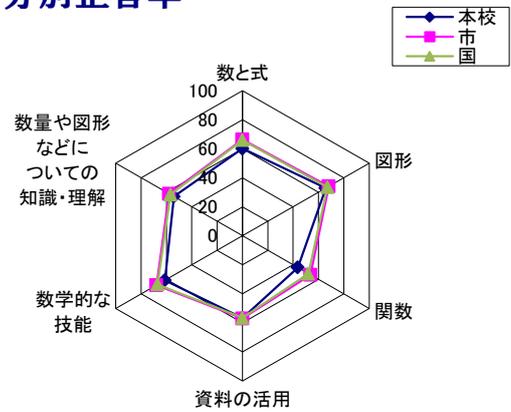
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「聞き手の立場を想定し、話の中心的な部分と付加的な部分との関係に注意して話す」ことについては県の平均を上回っている。 ●「話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較」することを苦手としていて、正答率は64%であった。	・「文章を比較する」「意見を比較する」「筆者の意見と自分の考えを比較する」など、比較しながら違いやよさを見つけていく授業を繰り返していく。 ・授業中の発言の時には、相手や場に応じた言葉遣いを意識させて発表させていく。
書くこと	○「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」「文章を読み返し、文の使い方などに注意して書く」は県の平均を3～5ポイント上回った。「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える」においては、県の平均を13ポイントも上回った。 ●「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」は県の平均を2ポイント下回った。	・自分の意見を文章に書くときや発言するときに、「根拠を明確」にして表現させる。 ・また、「読む」ときにも「根拠を明確」に読み取る練習をして、根拠を明確にする意識をもたせる。
読むこと	○「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」や「目的に応じて必要な情報を読み取る」は、県の平均を3ポイント上回った。 ●「目的に応じて文章を要約する」や「文章の構成や展開について自分の考えを持つ」は、県の平均を5～7ポイント下回った。	・「文章を要約する」ことや「自分の考えを持つ」は苦手な項目である。教科書の单元ごとに、内容を要約してまとめたり、筆者の意見に対して自分の考えを文章にまとめたりする学習を繰り返していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○この観点では、県の平均より上回っており、特に「人を敬う」という読みでは、県平均より10ポイント、「優美」の「美」が表している意味を正しく捉えるでは、6ポイント上回った。 ●「独創的な考え」という読み方や、「白羽の矢が立つ」ということわざの使い方は、正答率は50%を下回った。	・授業時間の中で定期的に漢字の小テストを行っている効果が表れ、漢字の読み書きの正答率は高かった。引き続き漢字の小テストを行っていく。 ・ことわざや慣用語などの使い方は正答率が低くなることが多い。教科書の文章中の言葉の意味も丁寧に扱い、語彙力を高める指導をしていく。

# 宇都宮市立城山中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

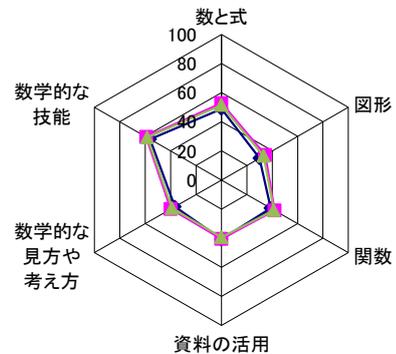
### 【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	60.1	66.4	65.9
	図形	65.7	68.1	67.1
	関数	43.6	53.7	52.0
	資料の活用	56.6	56.9	56.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	61.3	67.8	66.9
	数量や図形などについての知識・理解	54.1	57.8	56.8



### 【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	48.9	52.7	51.5
	図形	30.0	34.5	33.3
	関数	38.7	41.9	41.4
	資料の活用	40.8	40.5	39.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	36.7	39.9	38.9
	数学的な技能	56.2	59.2	58.5
	数量や図形などについての知識・理解			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○ある基準に対して反対の方向の性質をもつ数量を考える問題では、88.0%と高い正答率を出している。 ●県や全国と比べて、下回っている。正負の数や文字式、方程式などの単純な計算問題が苦手である。	・式を作り出す力はあるので、それをどのような手順で解いていくのかについて、丁寧な指導していく。 ・チームティーチングを有効活用し、個別指導を丁寧に行って、計算問題の理解を促す。
図形	○直線を軸として、対象移動させる問題では、県や全国平均を上回っている。 ●県や全国と比べ、正答率は下回っている。円柱や円錐の体積を考える問題では、正答率36.8%と低く、県や全国と比べて10%以上低い。また、ねじれの位置を考える問題でも、県や全国の平均を下回った。	・文章問題では、無回答も多く見られた。問題文から、必要な情報を取り出すことを重点に指導していく。 ・平面、空間における位置関係を考える問題には、より定着するよう、定期的に復習するよう心がける。
関数	○比例の表を完成させる問題の正答率は9割であった。また、数学Bでは、与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理する問題で、正答率が6割程度と高い数値を示した。 ●県や全国と比べ、正答率は下回っている。特に増加量を求める問題では、29.6%と低く、県や全国と比べて7%低い。	・関数全般の基礎的内容が理解されていないようなので、基本原理の解説を更に丁寧に行う。 ・活用の問題では、持っている知識を、どこで、どのように使っていきのかということを重点的に指導していく。
資料の活用	○県や全国とほぼ同程度の正答率である。特に測定値が与えられた場面において、近似値と誤差の意味を理解する問題では、県や全国の平均を上回っている。また、数枚のカードから1枚を選ぶ確率の問題では、79.2%と高い値を出している。 ●同様に確からしいことの意味を考える問題では、県や全国の平均を下回った。	・基本的な考え方は身に付いているが、最頻値や実際の試行から考える確率の問題ができていない。資料の整理を考える上での、数学的な見方や考え方の力を養う授業を展開していく。

## 宇都宮市立城山中学校第3学年生徒質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

・どの項目も県や全国の割合と同程度で同じような傾向である。

○いじめはどんな理由があってもいけないことであると答えた生徒の割合は96.8%であった。また、学校の規則を守っていると答えた生徒の割合は96%であった。日々の教育活動で規範意識が育っていると考えられる。この意識をより高めるために、日常の生徒の様子に目を配り、適切な指導をして聞くことを心がけていきたい。

○朝食を毎日食べているか、毎日同じ時刻に寝ているかなどの問いに対する肯定割合が高い。

○将来の夢や目標をもっていますかの問いには、82.8%の生徒があてはまると答えている。今後も、自分の良さを考えさせ、伸ばす指導を継続していく。

●64%の生徒が読書が好きと答えているが、1日あたりの読書の時間について、全く読んでいないと答えている生徒は30.4%となっている。学校での朝の読書の時間を利用し、学校での読書のあり方について指導していく。

●生徒たちは、ニュースを新聞ではなく、スマートフォン等の機器を使って、知る傾向がある。時間的には約5割の生徒が1時間程度メールやインターネットを行っている。携帯電話等は持たせない方向で指導を継続していくが、すでに生徒に持たせている家庭には、保護者会等機会を捉えて、①使い方のルールを決めること②ネットトラブルに巻き込まれないようにすること③巻き込まれたときの対処法等について啓蒙を図っていく。